

関係者は何と言っているか・・・ 2013年公開草案のフィードバック

Francesco Nagari
Deloitte Global IFRS Insurance Lead Partner
2014年1月30日



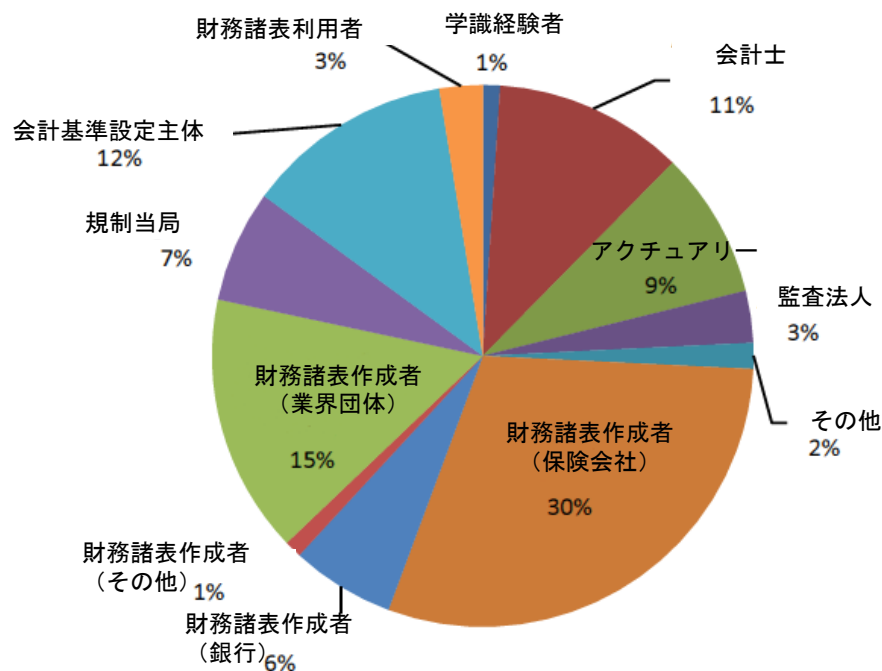
目次

- コメントレターおよびアウトリーチで挙げられた主要なテーマ
- 財務諸表利用者からのフィードバック
- フィールドワークの結果および所見
- IASBおよびFASBの理事からの重要なコメント – 1月22日合同会議
- IFRS第9号と保険契約の相互関係に関する議論
- 今後の日程と次のステップ

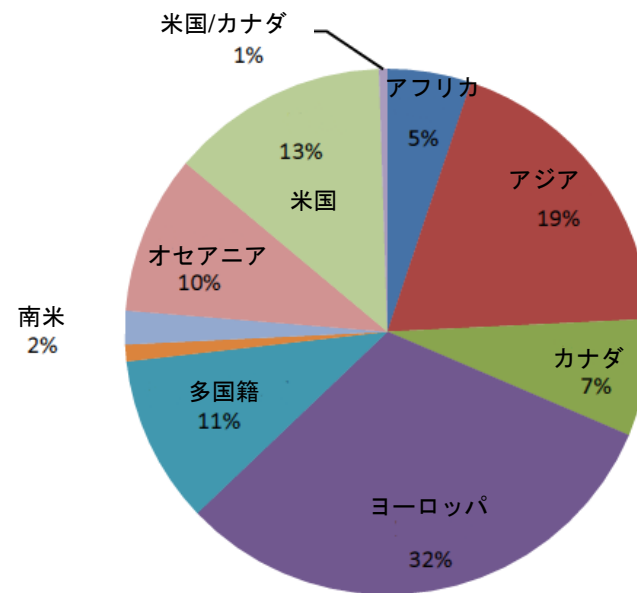
受け取ったコメントの概要

異なる地域の様々な回答者から194通のコメントレターを受け取った

回答者の内訳



回答者の地理的分布



出所：2014年1月 IASB スタッフペーパー2A

コメントレターおよびアウトリーチで挙げられた主要なテーマ

総評

- 過半数の回答者は、2013年の公開草案は2010年の公開草案から改善されたと考えている
- 多くの回答者は、保険契約負債を現在の価値（Current Value）で測定することを歓迎している
- 対応が求められる主な懸念事項
 - 一部の特定の提案に関する実務上の複雑性
（例）
 - ミラーリング・アプローチにおけるキャッシュ・フローの分解の必要性
 - 保険契約収益のために経営者が現在利用していない情報を利用する必要性
 - OCIによる解決策が強制されることによる会計上のミスマッチの程度

契約上のサービス・マージンのアンロック

全体的に支持されたが一部に懸念がある

- 将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りの変更について、契約上のサービス・マージン(“CSM”)をアンロックする提案は幅広い支持を集めている
 - 保険契約の未稼得利益としてのCMSをより反映している
 - 当初認識と事後測定に整合性がある
 - ビルディング・ブロック・モデルと保険料配分アプローチにおける測定に整合性がある
- 一部の回答者はCSMのアンロックに合意していない
 - 保険者による見積りの変更が、直ちに財務諸表に反映されるわけではない
 - 透明性が低下し、業績の平準化（smoothing）につながる

契約上のサービス・マージンのアンロック(続き)

変更の提案およびDeloitteの見解

- 提案されている変更

- 将来のサービスに関連するリスク調整の変更について、CSMをアンロック
- CSMを再認識する前に、過去に純損益に認識した損失を戻入れ
- CSMのアンロックの範囲を追加

(例)

将来のサービスに関連する再投資の仮定の変更、未稼働利益に関連する裏付資産のリターンの変動

Deloitte の見解

- アンロックの提案を歓迎する
- 次の修正を提案
 - CSMの稼得期間を、カバー期間を超えて延期すること
 - リスク調整の将来の変更について、CSMを調整すること
 - CSMのアンロックを将来キャッシュ・フローの変更に限定しないこと

ミラーリング・アプローチ

様々な見解が混在し、多くの懸念がある

- 多くの回答は、ミラーリング・アプローチにより一部の有配当契約に関する会計上のミスマッチを取り除くという理事会の意図を支持している
- 地域により様々な見解が混在している – カナダとアジアの回答者はミラーリング・アプローチを支持しているが、ほとんどの関係者はミラーリング・アプローチについて重大な懸念を示している
- キャッシュ・フローを分解するという提案の複雑性に対して懸念が挙げられている
- その他の懸念事項
 - 適用範囲が明確でない
 - 比較可能性への懸念
 - 有配当契約と他の保険契約
 - ミラーリング・アプローチが適用される契約と適用されない契約
 - 基礎となる項目が公正価値で測定されない場合に、ミラーリング・アプローチはミスリーディングとなりうる

ミラーリング・アプローチ (続き)

変更の提案およびDeloitteの見解

• 提案されている変更

回答者により異なる見解

- すべての保険負債はBBAにより測定され、会計上のミスマッチは資産の会計を修正すべき
- OCIによる解決策は、強制ではなく任意適用とする
- 一部の回答者は代替的アプローチを提案

• ミラーリング・アプローチが適用されない有配当契約についても、IASBは明示的に質問を求めているが、コメントが寄せられた

- 異なるキャッシュ・フローに異なる割引率を適用することの実務上の複雑性
- いずれのキャッシュ・フローが現在の市場利率で割引され、ロック・インされた利率で割引されるべきかが明確ではない

Deloitteの見解

- 資産と負債のキャッシュ・フローの経済的なマッチは忠実に表現されることに合意
- ミラーリング・アプローチによる分解を棄却し、修正BBAに置き換えることを提案

保険契約収益

様々な見解

- 回答者からの見解は混在している
 - 支持者の見解：他業界との比較可能性が向上する
 - 反対者の見解：有用な情報を提供しない、アナリストが保険会社と比較するのは他の保険会社である
- 投資要素を保険契約収益から除外する要求事項は、提案に反対する基になっている
 - 投資要素は保険契約と不可分である
 - 投資要素を分離することは実務的に複雑である、必要な情報が既存の会計システムからは入手できない
- IASBが提案内容と重要な業績評価指標について、財務諸表作成者および利用者に対する教育を行うことに同意

保険契約収益（続き）

変更の提案およびDeloitteの見解

• 提案されている変更

- キャッシュ・フローに関するより目的適合的な情報が得られ経営者が業績を評価する方法とより整合的であることから特定の法域は、投資要素も含めた期日到来保険料による表示を支持
- 少数の回答者は、比較可能性と業績についての情報を提供することから、グロスベースの受取保険料による表示を支持
- 一部の回答者は、要約マージン・アプローチを支持
 - 測定モデルおよび保険契約の業績評価の主要ドライバーと最も直接的にリンクしている
 - 損益計算書からキャッシュの受払いが除かれている
 - 適用がより容易である

Deloitteの見解

- 新しい収益指標として、長期の保険契約を最も忠実に表現していない
- 新しい指標は投資家が求めるボリューム情報を提供していない
- 2010年度公開草案における要約マージンによる表示を提案

利息費用の表示

- 多くは、純損益では保険契約を償却原価、貸借対照表では現在の価値と見る提案を支持
- 割引率の変動を強制的にOCIで認識すること（OCIによる解決策）についての支持は限定的
 - 提案を適用することにより、保険負債の裏付資産が異なる測定となることより生じる、重大な会計上のミスマッチへの懸念が一般的に寄せられた
- 損害保険会社は生命保険会社よりも、OCIによる解決策を支持していない。ほとんどの損害保険会社は、割引率の変動による影響を純損益で表示することを選好

利息費用の表示（続き）

変更の提案およびDeloitteの見解

- 提案されている代替案
 - 多くが割引率の変動をどこに反映するかオプションとすることを提案
 - OCIによる表示をデフォルト、純損益による表示をオプション
 - 純損益による表示をデフォルト、OCIによる表示をオプション
 - いずれもデフォルトとはせず、割引率の変動をOCIまたは純損益に表示するか保険会社が選択
- ほとんどの回答者はオプションの選択は、ポートフォリオ・レベルで適用することを提案し、一部の回答者は会社全体で適用することを提案
- ほとんどの回答者は契約開始時に行われた選択を取消不能とすることを提案

Deloitteの見解

- IFRS第9号と連携して開発することを支持
- 保険契約単位での指定を認める– OCIの強制は否定
- これが受け入れられない場合、ヘッジ対象リスクに帰属する利得または損失の範囲で、保険契約の累積OCIの変動を純損益で表示することを許容すべき
- 資産側における公正価値オプションの適用は制限されるべきではない

経過措置のアプローチ

幅広い支持があるが、一部について懸念がある

- 実務上不可能と思われる個所について個別に簡便化された遡及的なアプローチに対して幅広い支持があった
- ほとんどの回答者は導入コストが増加するとしても移行時にCSMを認識するという提案を歓迎している
- 挙げられた懸念事項
 - キャッシュ・フローの決定に要求される情報の入手可能性
 - 過去の割引率を決定することの実務上の不可能性
 - 提案された簡便化により移行日時点のCSMが過大計上される可能性
 - 見積りの主観的な性質および監査可能性
- ほとんどの回答者は保険契約の新基準とIFRS第9号の発効日は整合すべきと信じている。不可能な場合には様々な提案がなされている
- ほとんどの回答者は提案された3年間の導入期間に同意している

経過措置のアプローチ(続き)

Deloitteの見解

Deloitteの見解

- 完全遡及アプローチが最も適切で正確な方法である
- 3年という期間は導入期間として十分である
- ポートフォリオ単位で集計された契約によってCSMを測定するというFASBの提案を検討する
- 保険契約の基準とIFRS第9号の発効日を整合させることを推奨する
- これが受け入れられない場合、金融資産の分類変更というオプションを提案
- 資産側における公正価値オプションの適用は制限されるべきではない

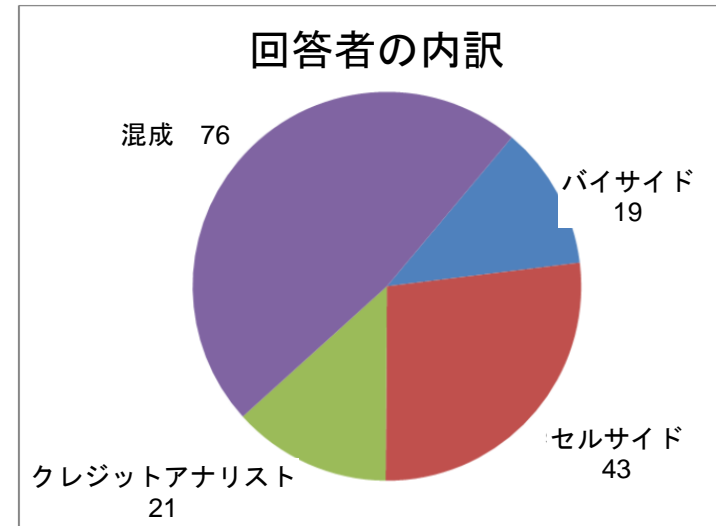
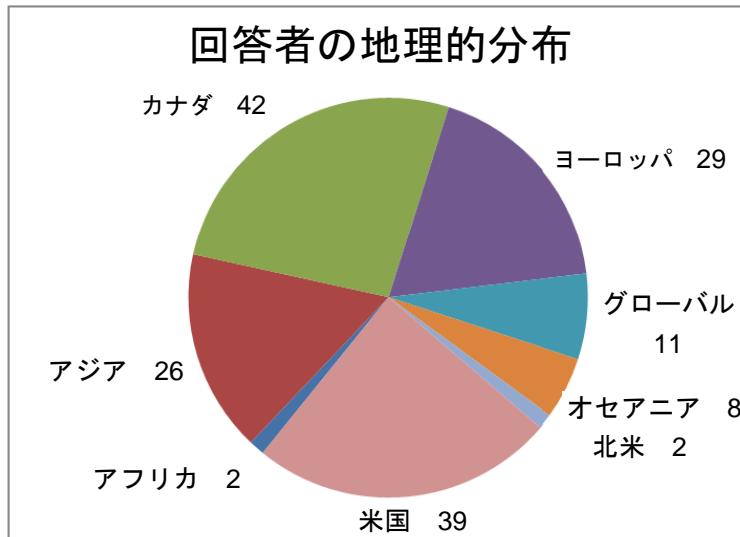
基準の全体としての影響

幅広い支持があるが、一部について懸念がある

- すべての種類の保険契約に適用できる単一の会計モデルの提案は幅広い支持を得た
- しかし、既存の会計実務からの変更の影響に対する懸念がある（法域による）
- IFRSとUS GAAPの完全なコンバージェンスの可能性がないとすると、IASBがどのように進めるべきかについて様々な見方がある
- ほとんど回答者は導入コストが多額になると認めている
- しかし、多くは会計上のミスマッチや有配当契約などの重要な問題が解決されれば便益がコストを上回ると信じている

財務諸表利用者からのフィードバックの概要

2013年6月から12月の間に、159の財務諸表利用者と44回協議



出所：2014年1月 IASBスタッフペーパー2B

財務諸表利用者からのフィードバック

全体的なコメント

- 変更の必要性
 - 特に複数の異なる法域で事業を行っている場合や異なる種類の事業を比較する場合についてほとんどの利用者が変更の必要性を認識している。
 - 比較可能性と透明性が欠如している
 - 米国、オーストラリアおよび企業が主に損害保険を発行している地域の利用者は重要な変更は必要ないと考えている
- 現在の市場整合的な情報
 - ほとんどの利用者はより客観的な情報をより適時に提供できるとしてその会計モデルを支持している
 - 一部の利用者は市場整合的な情報に基づく会計モデルは保険のビジネスモデルを忠実に表していないと信じている
 - 一部の利用者は金融資産と保険負債を個別に測定することにより意図しない会計上のミスマッチおよびボラティリティが生じると考えている
 - 2~3名の米国のアナリストは短期契約を割引くことの便益について問題視している
 - 主観的な見積りと仮定に依存している

財務諸表利用者からのフィードバック

開示に対する支持

- 開示

- ほとんど利用者がディスクロージャーの重要性を強調している
- 貸借対照表の変動の調整表、包括利益計算書で認識された額、仮定および仮定の変更による感応度の開示およびある粒度のレベルでの開示への支持
- 一部の利用者はUS GAAPまたはソルベンシー II に準拠するために追加の情報を提供することになり、そのような情報とIFRSの調整表の開示が要求されるのではないかと懸念している

IASBがフィードバックを求めている項目

一部の提案は支持されたが、他はそうではなかった

- CSMのアンロック
 - ほとんどの利用者が提案に同意
 - ほとんどの利用者は、当期にCSMに対して調整される見積りの変更の金額を開示することの重要性について言及している
 - 一部の利用者は、仮定の変更の影響を即時に純損益に認識することを選好している
- ミラーリング
 - この項目は、有配当契約を分析している利用者とのみ協議された
 - 多くの利用者は、ミラーリング・アプローチにより、有配当契約の経済性をより良く反映することが可能になると考え、この提案に同意している
 - 一部の利用者は、一部の保険契約について測定の特例を設けることによって、比較可能性が害されると考えて、この提案に同意していない。また一部の利用者は、複数の構成要素を異なる方法、すなわち償却原価と現在の価値で測定することに対して反対している
 - オプションおよび保証は現在価値アプローチを用いて測定すべきことについて、ほとんどの利用者が同意している

IASBがフィードバックを求めている項目

収益および費用の表示に関する様々な見解

- 収益および費用の表示
 - バイサイドのアナリストは、提案の概念上のメリットに全般的に賛成している
 - セルサイドのアナリスト、主に長期契約について分析している利用者およびその他の金融機関は、一般的にこの提案に反対している。彼らは、異なる種類の契約に対応した異なる表示アプローチによって、それらの契約の異なる経済性が反映されると考えている。彼らは要約マージン表示を選好している
 - 提案された保険契約収益の理解可能性および有用性について、すべての利用者が懸念を示している
 - 要約マージン表示およびボリューム情報の両方が提供されることの必要性を、多くの利用者が強調している
 - 保険料に含まれる預り金は収益として表示するべきではないとすべての利用者が強調している

IASBがフィードバックを求めている項目

一部の提案は支持されたが、他はそうではなかった

- 投資結果の一部のOCIへの表示
 - 多くの利用者が提案に賛成した
 - 一部の利用者は、すでに現在の価値の情報を入手しており、その効果を理解することに慣れていることから、提案に反対している。彼らは、すべての変動を即時に純損益に認識することを選好している
 - 資産がFVOCI以外で測定される場合に、提案される強制的なOCIの使用により生じるミスマッチに関して、多くの利用者が懸念を示している
- 経過措置
 - すべての利用者が提案されたアプローチに同意している
 - 多くの利用者は、使用された仮定および簡便化を説明し、簡便化により決定された金額を開示する要求事項を支持している
 - 一部の利用者は、実務上の複雑性さ、起こりうるデータの欠如、IFRS第9号とIFRS第4号フェーズⅡの発効日の不整合の可能性に関して、懸念を表明している

フィールドワークからの所見

全体的な所見

- 基本的な提案は適用可能である
- 提案は重要な導入コストが生じる、その金額は企業ごとに異なる
- 報告される金額はその見積りに使用される仮定によって影響を受ける。参加者の中には、仮定の違いにより引き起こされる比較可能性の欠如のため、提案の適用に伴うコストは、便益を上回ると考えるものもいる

フィールドワークからの所見

限定された提案

- 5つの限定された提案について、便益がコストを上回るかどうかに関して回答は様々である
- 一般的に5つの提案は、複雑性のレベルが異なるものの適用可能とされている
- しかし、EUからの参加者の過半数が、長期契約およびミラーリング・アプローチに関する収益および費用の表示は適用可能ではないと考えている
- 参加者の中には、5つの提案の複雑性のため、さらなる簡便化または代替的なアプローチの提案を要求したものもいた

IASB及びFASBの理事からの重要なコメント

2014年1月22日開催IASB・FASB合同会議

- CSMのアンロック – 以前マージンのロックインを支持していた2名のFASB理事は、損益をより現在に近づけ、保険会社以外の損益との比較可能性を向上させるために、CSMのアンロックに意欲を示し、これによってIASBとのコンバージェンスの達成を探求することに価値があると表明した
- ミラーリング・アプローチ – IASB理事は、ミラーリング・アプローチに関して反対のコメントを受け取ったことに驚いた
- 収益および費用の表示 – IASBおよびFASBの2~3名の理事は、ボリューム情報の注記を伴う要約マージンアプローチに戻る方が良いかもしれないとの見解を表明した
- 割引率の変動による影響のOCIへの表示 – FASB理事は、IASBとFASBの割引率の定義がコンバージェンスされていることを確保することが重要であると述べた

IFRS第9号との相互関係に関する重要なコメント

2014年1月22日開催IASB理事会

- IASBスタッフは、FVOCI区分の導入は保険会社の懸念事項への対応として十分であると考えている
- 一部のIASB理事は、保険契約との相互関係を完全に理解することなく、IFRS第9号を最終化することは、適切ではないと考えている。しかし過半数の理事は、IFRS第4号のフェーズⅡの完成状況にかかわらず、IFRS第9号を最終化することが重要であると考えている

今後の日程と次のステップ

今後の方針の可能性

- IASBは3月のFASBとの合同会議までは、保険契約に関する提案の再審議を行わない予定である
- 保険契約プロジェクトに関する優先事項に取り組むため、スタッフはプロジェクトプランを提供する計画である
 - OCIによる解決策および有配当契約に関する重要な懸念事項に取り組むこと
 - 経過措置およびCSMのアンロックに関する更なる簡便化、明確化および改良について検討すること
 - 保険契約収益に関する提案に関して、コストを上回る便益を評価すること
 - 再審議を要求する他の論点を決定すること
- 保険契約基準とIFRS第9号の相互関係については、IFRS第9号の最終化の期間中に別個に取り組まれるのではなく、保険契約基準の再審議の中で議論されるであろう
- IASBの再審議は、2014年夏の終わりまで続くことが予想される。その後、IASBスタッフはIFRSのドラフト作成を開始するであろう
- このタイムテーブルが達成された場合、保険契約の最終基準書の公表日は、2015年の第1四半期中となる可能性がある

コンタクトの詳細

Francesco Nagari

Deloitte Global IFRS Insurance Lead Partner

+44 20 7303 8375

fnagari@deloitte.co.uk



 @Nagarif

Deloitte Insights into IFRS Insurance

www.deloitte.com/i2ii

Insurance Centre of Excellence:
insurancecentreofexc@deloitte.co.uk



The screenshot shows the Deloitte website's 'Insights' section. The main article is titled 'Insurance IFRS: Insights into IFRS Insurance – Counting cost or maximizing benefit?'. The article text states: 'Insurance companies have been waiting over a decade for a single global accounting standard that fits their unique and complex industry. Deloitte understands the insurance industry and its need to gain improved economies of scale and minimize duplication through mandated regulatory change. Deloitte Global IFRS Insurance Leader Francesco Nagari provides a practical guide to the key provisions and observations relevant to the development of a single global accounting standard befitting the insurance industry on IASPlus. For more information, please contact Francesca Smith, Global IFRS Insurance Lead Director.' The page also features a sidebar with navigation links, a search bar, and social media links for Francesco Nagari on Twitter and LinkedIn.